

開催報告

「京都府立大学オリジナル酒「なからぎ」の歩みとリニューアル」の開催について

本学では、2012年度以降、地域貢献型特別研究（ACTR）で京都府及び伏見酒造組合等と連携し、府独自の酒造好適米「祝」と酒造原料米の新品種「京の輝き」の特性を研究し、2014年度には「京の輝き」を使った府大オリジナル酒「なからぎ」をプロデュース。さらには、酒米粉や副産物を使用した商品を開発してきました。

2020年、京都市産業技術研究所で新酵母「京の恋」が研究開発され、酵母を変更し「なからぎ」をリニューアルしました。この新たな「なからぎ」のお披露目と共に、この間の「なからぎ」に係るACTR及び産学公連携の取組の成果を総括する成果報告会を2021年1月29日に開催いたしました。

今年度はオンライン開催とし、京都経済センターの京都知恵産業創造の森の協力のもと、一般府民の方をはじめ、企業の方、学生の方に多くご参加いただきました。



報告会の様子と
府大オリジナル酒なからぎ



「精華キャンパスACTR（地域貢献型特別研究）成果発表」の開催について

2020年度に採択され、取り組んだ研究のうち、特に精華キャンパスにて積極的に取り組まれた先生の研究成果について発表する報告会を2021年3月9日に開催いたしました。

報告会では「ドローンを活用した果樹鳥獣害軽減方法の確立」や「「洛いも」の地域ブランド力強化に向けた褐変抑制・低温耐性系統の作出」について等の研究を含め計6テーマの研究について、その研究の背景から2020年度においてどのような結果がみられたのかについて各々の先生方から発表いただきました。参加者は農家の方を含め、実践者が多く、自らの取組にどのように活かせるのか等の質問もありました。



報告会の様子

京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）パネル展示



パネル展示の様子

当センターでは例年、府民の皆様へ地域貢献型特別研究（ACTR）の研究成果を広く知っていただくための企画として、府内各地において本学教員が自治体、NPO、経済団体などと連携し、地域課題解決に向けた調査研究活動に取り組んだ内容をわかりやすくポスターにまとめ、京都学・歴史館にて展示をしております。今年度は2020年9月10日から9月30日まで京都学ラウンジにて開催いたしました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、例年本企画と同時に開催しておりましたACTRポケットセミナーを中止とした代わりに本展示にて映像ブースを設け、より視覚的にわかりやすい展示にしました。

受賞報告

【2020年度（第18回）京都環境賞優秀賞を受賞！】

高分子材料設計学研究室の細矢憲教授の「府大ACTR触地図プロジェクト」が京都環境賞優秀賞に決定

京都市では、環境と調和した持続可能な社会の実現に向け、環境保全に貢献する活動に顕彰があり、この度、高分子材料設計学研究室の細矢憲教授の「府大ACTR触地図プロジェクト」が京都環境賞優秀賞に決定されました。応募180件の中から、最優秀賞1件、優秀賞3件、入賞14件が選ばれています。



府大ACTR触地図プロジェクト

コンセプト：触らないと伝わらない「環境情報」の伝え方改革

コロナ禍で接触を避けることが日常となる中、「触れる」ことが重要な情報源となっている視覚障害者等が大きな影響を受けているため、京都市産業技術研究所及び大平印刷株式会社（伏見区）の協力の下、ユニバーサルデザイン、抗菌インクによる点字印刷、音声データ等を組み合わせることで効率よく環境情報を伝える「触地図」を二条城と府立植物園について作成されました。

（植物園触地図の概要）

- ・厚手の紙に地図情報を凹凸で表示。温室、花壇、森、道、川、噴水などを立体印刷で隆起させた図や点字などを配置。全体図は弱視者にも利用いただけるようエリア別に着色。
- ・ドット印刷による音声情報をタッチペン（音声ペン）で読み取ることで、点字を認識できない方も、各エリアの案内や特徴的な植物の情報、園内で聞こえる野鳥の鳴き声などに触られます。



NEWS LETTER

20
2021.4

京都地域未来創造センター 新体制をご紹介します！

■京都地域未来創造センター長 挨拶



川勝 健志 公共政策学部教授

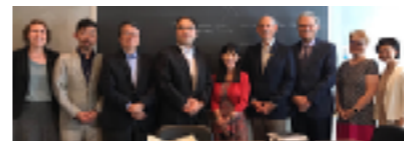
昨年4月にセンター長に就任し、早くも2年目を迎えました。昨年度はコロナ禍に見舞われ、地域の方々と対面で交流する機会が大きく制約されましたが、その一方で仲間と話し合う機会が増えたように思います。当センターのパートナーともいべき遠方の仲間とも、オンラインだからこそできる高頻度な交流が活発化しつつあります。仲間とのコミュニケーションと多様な人的ネットワークの構築は、私が常に大切にしてきたことであり、次世代につながる新しい価値を創造するうえでも欠かせないものです。

今年度はセンター独自のウェブサイトや「（仮称）場づくりlabo in 京都」の立ち上げなどにも挑戦します。私たちの新たな試みを、皆様にもワクワクして頂けるようなものにつくり上げていきたいと思っています。

【KIRP】2021年度 京都地域未来創造センター新体制

センター長	川勝 健志	副学長・公共政策学部教授	
副センター長	宮藤 久士	生命環境科学研究科教授	
統括マネージャー	上杉 和央	文学部准教授	
データサイエンスアドバイザー	岩崎 雅史	生命環境科学研究科准教授	
連携推進員（学部選出）	東 昇	文学部教授（前期）	
	岸 泰子	文学部准教授（後期）	
	玉井 亮子	公共政策学部 准教授	
	平野 朋子	生命環境科学研究科准教授	
	田中 俊一	生命環境科学研究科准教授	
シンクタンク（調査研究等）	企画調整マネージャー	藤原 茂樹	公共政策学部准教授
	コーディネーター/上席研究員	鈴木 暁子	
	研究員	長田 萌	市町村研修派遣職員(精華町)
	研究員	今堀 誠弥	市町村研修派遣職員(京田辺市)
地域創生人材育成プログラム(coc+)	コミュニケーションデザイナー	永田 恵理子	
	客員教授	奥谷 三穂	

※企画・地域連携課の職員も参加予定



KIRPについて

京都地域未来創造センター（KIRP）は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel : 075-703-5390
Fax : 075-703-4979
mail : kirpinfo@kpu.ac.jp
HP : <https://www.kpu.ac.jp/>
〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
稲盛記念会館 1階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS



【受託研究・ACTR】2020年度調査報告

京都地域未来創造センターが外部から受託した調査研究を以下の通り報告します。

■「地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究」(2年目) (府大ACTR)

京都府北部山間地区は独特の歴史文化が発展した地域であり、独自の祭礼や行事が地域コミュニティの紐帯を担ってき増田が、過疎化・高齢化に伴う担い手不足から存続が難しくなっています。文化財の消滅はコミュニティの崩壊を加速させるものであり、コミュニティの維持・活性化と文化財の維持・活用は、いわば両輪として解決する課題であります。

このような背景の元で、2020年度は、①京都市左京区役所及び京都市文化財保護課の協力を得て、左京区の指定文化財の保存会を対象にしたコロナの影響や後継者育成をめぐるアンケート調査、②地域資源としての文化財の活用に関する事例調査(和歌山県有田川町および長野県松本市) ③研究会(計14回)を行いました。

議論の中で、自治体の地域コミュニティ政策や推進体制、地域住民との協働の仕組みの多様性、文化財保存活用と地域づくりをつなぐプレイヤー(非営利民間組織、自治体等)の組織原理のちがいが、活動の方向性や範囲にも影響を及ぼすのでは、という仮説が抽出できました。

こうした調査により、文化財の保存活用と地域づくりは密接に関連するものの、自治体施策(文化財保護部署の位置づけ、地域コミュニティ政策の方向性)の特徴、および民間のプレイヤーの多様性に関する考慮が不可欠であることがわかりました。2021年度はこうした点を加味した類型化を試みる予定です。

(体制：上杉和央文学部歴史学科准教授(統括マネージャー)、鈴木暁子コーディネーター(文責))



「和歌山県有田川町の棚田」

■「産業関連情報の総合的集約とそれを用いた地域産業情報支援および情報発信産業支援サイトのあり方と活用方策」(3年目) (府大ACTR)

ACTR研究を通じて制作された城陽市産業支援サイトJolnT(<http://www.city.joyo.kyoto.jp/joint/>)ですが、昨年度の公開から丸1年が経過しました。コロナ禍で経済状況が低迷する中にありながら、2021年1月時点でのアクセス数は13万件を超えました。秋の行楽シーズンにはアクセスが集中したようなページもあり、当初期待されていなかった観光面でも反響があったと聞いています。

さて今年度の活動ですが、昨年度に続いて企業ヒアリングを行う予定でしたが、思うように進めることができませんでした。

緊急事態宣言下では対面のヒアリングが行えないのは当たり前ですが、緊急事態宣言が解除されてもヒアリングはもう少し先にしてほしいという企業が多く、想像以上に掲載企業を増やすのは難しい状況でした。

今年度、新たに試みたことはドローンによる撮影です。デジタルカメラでは全体が収まらない敷地の広い工場などはドローン撮影が有効です。来年度はコロナ禍で地域産業界がどのような影響を受けたかについて調査・研究する予定です。

(体制：岩崎雅史生命環境科学研究科准教授(文責)、青山公三名誉教授、新庄雅斗同志社大学理工学部助教)



「ドローンで撮影した日建リース工業株式会社京都工場」

■宇治市委託+府大ACTR「宇治市・小倉地域における市民との協働型まちづくりに関する調査」(3年目)



「青山名誉教授の総評の様子」



「ワークショップの様子」



「ワークショップまとめの様子」

本ACTRを通じて、宇治市による近鉄小倉駅周辺地区における市民との協働まちづくりに貢献できたのではないかと考えております。

(体制：藤原茂樹公共政策学部准教授(文責)、青山公三名誉教授、長田研究員、永田研究員)

本学青山名誉教授の指導の下でスタートした近鉄小倉駅周辺地区における「市民との協働型まちづくりのあり方」に関するACTRの3年目の調査研究が終了しました。

最終年度となる今年度は、これまでの調査でフォローできていなかった若者の意見を把握するため、中学校2校(西小倉中学校・北宇治中学校)と高校1校(城南菱創高等学校)の生徒へのアンケート調査(中学生：305票配布、高校生：649票)を実施しました。

この調査では、生徒達の多くが、近鉄小倉駅周辺について「買い物が便利である」「駅の利用がしやすい」等と肯定的に考える一方で「道路の広さ」「まちの活気」等に課題があると考えていることや、中学校で約5割、高等学校で約3割の生徒が小倉地区での定住意向を有していることが明らかになりました。

また、アンケート調査に先立って実施した中学校でのワークショップでは、「お気に入りの場所」として、様々な味のたい焼きを販売している「たい焼き屋」を報告するグループが相次ぐなど、地域の大人とのワークショップでは出てこなかった若者らしい地域の魅力を発見することもできました。

この他、約300の事業者を対象に実施したアンケート調査では、回答いただいた65事業者の「営業年数」「コロナ禍の状況」「顧客層」の状況を把握することができた他、それら事業者が考える「近鉄小倉駅周辺地区の活性化に重要なこと」を確認することができました。

これら調査により得られた知見は、研究協力者である宇治市都市計画課に報告書として共有しており、同市の「近鉄小倉駅周辺地区まちづくり検討委員会」での審議の基礎資料として活用されております。3年間に及び

COC+だよ

学生の新しい視点で地域の魅力を発信！「美山、住んでみよ。」を作成

私たち2回生3名は、南丹市美山町に移住している女性5名の方取材し、冊子と動画を作成しました。移住者との事前打ち合わせで、美山は観光に関する情報は豊富な反面、移住者のリアルな情報は少ないということがわかり、美山に移住して生活する人たちにフォーカスを当てたテーマに決定しました。

メンバー全員が女性だったこともあり、女性の生き方にも興味があり、個性豊かな5名の女性からお話を伺い、移住動機や子育て事情、苦労した点など、美山生活のことが具体的にわかる内容にしました。冊子、電子ブック、動画と様々な媒体で制作したので、より多くの方に見ていただき、さらに実際に美山へ足を運んでいただければうれしいです。

(文責：2020年度2回生 公共政策学部公共政策学科 木村真梨子・山本紫保/生命環境学部森林科学科 大岩葉月)



COC+YouTubeチャンネル
「美山に生きる女性たち」QRコード



冊子
「美山、住んでみよ。」
QRコード